

(4) 講 評

○委員長 それでは、2つの課題の講評をしたいと思います。

最初の特別研究課題「災害に強い位置情報の基盤（国家座標）構築のための宇宙測地技術の高度化に関する研究」中間評価になりますけれども、素晴らしい成果を今までの3年間で上げられていると思います。

そして今後ですけれども、現在も起こっているような様々な変化を取り入れながら、残りの2年間の研究を邁進させていただきたいというのが委員の総意でございます。

計画進行に当たって、まず、この研究の応用の場面、特に地籍に関わるようなことにも応用可能だということで、これに関しては影響が非常に大きいので、これを応用させる場合というのはどのような問題点があるかも含めて、よく考えながら進めていただいて、そういうことも考えていただければと思います。

また、この研究の成果というのは非常に世界にアピールするものでございますので、公表はされていますけれども、どんどん公表して世界に強く日本のこの技術をアピールしていただきたいと思っております。

以上が1番目に関する講評でございます。

2番目、「AIを活用した地物自動抽出に関する研究」の終了時評価になります。本研究も素晴らしい成果を上げたものと判断いたしました。論文に関しましては、先ほどの説明がございましたように、これからということなのでぜひ論文公開も進めていただきたいのですけれども、データの公開や社会実装するための様々な公開を積極的に国土地理院が行っているという点は、これも評価が高いということになります。

一方で、これは研究そのものではないのですけれども、国土地理院に対する注文としまして、途中で1名の研究体制になってしまったということですが、国土地理院が国としてやる研究も非常に重要であります。しかも、かなりの専門性を持って進める必要がございます。国土地理院には、そういう研究体制というものをぜひ考えていただきたい。人数の問題もありますけれども、技術的、あるいは能力的な引継ぎというものも含めて研究体制にも重きを置いて今後も研究をやっていただきたいというのが、これは国土地理院の研究体制全体に対してですけれども、委員のほうから注文という形で提言させていただきたいと思っております。

ほかの先生方、このような形でよろしいでしょうか。

それでは、以上をもって講評を終わりといたします。